

1. 基本情報

渡航先国名・地域名 (☆)	台湾
滞在都市 (☆)	台北市
留学先大学等名 (☆)	国立台湾大学
留学先での所属学部/研究科 (☆)	社会科学学院
留学先で主に使用した言語	英語
渡航先への入国日 (☆)	2020年 2月 10日
渡航先からの出国日 (☆)	2020年 6月 27日
渡航先国での滞在期間 (☆)	4か月半
同伴者の有無・続柄・年齢等	無
その他	

2. 留学先の大学に関する情報

2. 1 授業に関する情報

履修科目名称	Political Science(Ⅱ)
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50min×3
授業形態 (講義・セミナー)	講義(ディスカッション)
取得単位数	3
履修科目名称	Public Administration(Ⅱ)
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50min×2
授業形態 (講義・セミナー)	講義(ディスカッション)
取得単位数	2
履修科目名称	Market and Economic Development of Taiwan (Ⅱ)
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50min×2
授業形態 (講義・セミナー)	講義
取得単位数	2
履修科目名称	Topics in Labor Economics
履修期間	
授業時間 (○分×△回)	50min×2
授業形態 (講義・セミナー)	講義、研究発表
取得単位数	2

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Corporate Finance 50min×3 講義 3
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	Neural and Behavioral Research in marketing 50min×2 講義 2
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	General Chinese Language Course 50min×3, 2コマ/week 講義 3
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
履修科目名称 履修期間 授業時間（○分×△回） 授業形態（講義・セミナー） 取得単位数	
留学生（日本人）の割合	

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

成績評価の方法(試験・課題の数や分量等)	<p>Political Science…普段は授業と数人グループでディスカッションだが、中間と期末に大量のレポート。</p> <p>Public Administration…とても考えさせられる授業。課題も軽くないが、やりがいを感じる。ついていくために予習が欠かせなかったのも、自然と授業中も予習をベースに考える癖がついた。</p> <p>Taiwan の歴史…2 週間に 1 回 30 ページ前後の論文を 2 本読みグループで課題を仕上げる。中間・期末には Writing の筆記試験。英語の論文を読むことへの抵抗がなくなった。</p> <p>Labor Economics…日本のゼミで 1 年かけてやる研究を 1 学期で行う。学部生は共同編集者で行ってもいいが、とてもハードだった。</p> <p>Corporate Finance…コロナを考慮して今季は期末試験が 100%。NTU ではかなり珍しい。必死に取り組んだが知識として未熟だと思うので今後日本語で学び直す予定。</p> <p>Marketing…唯一他学部の授業。日本でのゼミにつながると思い履修。非常に興味深くグループワークもいい経験になった。</p>
履修科目の制限等(あれば)	特になし
(英語圏以外の場合) 英語の使用頻度、英語での授業科目の充実度等について	<p>私は英語で学ぶことに重点を置いていたので、常に英語を用いていた。中国語も履修していたが、日常会話に生かすというよりは他の留学生とより接することのできる機会と思って楽しんでいた。</p> <p>基本的に教授は生徒に真摯に向き合ってくれました。中国語の教授はコミュニケーションを楽しませてくれた。</p>
語学に関するサポート(特別授業、チューター、エッセイライティングに関するサポート等)	
授業内での留学生に対するサポート等	対応がややぞんざいな教授も稀にいるが、基本的に配慮してください。
その他	

2. 2 福利厚生に関する情報

大学内での福利厚生施設(生協・購買・食堂)について	物価がさほど高くない台湾だが、校内の購買や食堂はさらに安くなっている。時間がない時によく利用していた。
---------------------------	---

図書館について	平日の授業以外の時間はほぼここにいたと言っていいほど利用していた。パソコンを使うことが非常に多かったため、コンセントが多くあるのは良かった。
保健センター等の有無	有。利用したことはない。
クラブ・サークル等について	コロナのため学期終わり直前まで中止されていた、
留学生へのサポート	学生のバディさんがあらゆる方面で助けてくれた。たまに校内のスタッフで英語が通じない人もいたが、大きな不自由は感じなかった。
オリエンテーション等学校主催の行事について	オリエンテーションや寮でのイベントは楽しめた。 この学期中最も仲良くなった友人はオリエンテーション後のキャンパスツアーで出会った子なので、とても貴重な機会だったと思う。
現地の学生との交流について	英語で開講される授業に参加する現地の学生とはたびたび話していたが、それ以外は友達の友達という間柄くらいでしか接点がなかった。
Visitor 他の留学生との交流について	寮で見かけると挨拶と軽い会話をする友人はたくさんいたが、よく会うのは勉強に対するモチベーションと生活習慣が合う人、という印象。グループワークやディスカッションで同じになった留学生とは仲良くなった。
学外での活動について(地域コミュニティ活動等)	学期開始直後、外部での観光ツアーに一度だけ参加した。
長期休暇中の過ごし方	(友人談)言語の資格試験の受験や旅行が多い印象。 中には現地でインターンに挑戦している子もいた。
その他	特に留学前、NTU サイトのトラブルやその他質問でメールのやり取りをしたことがあるが、親身になって対応して下さり返信も早い。

3. ビザ・入国・渡航直後の手続きに関する情報

ビザの種類(☆)	Visitor' s VISA 留学期間が半年だけだったので、Resident に相当する VISA は取得しなかった。一時帰国もなし。
ビザの取得手続きについて(申請方法、申請から取得までの所要期間等) (☆)	実際は渡航半月前に中之島に行った。 事前にサイトで必要な書類を用意しておくこととスムーズ。証明写真は顔の面積の最低サイズが決まっているので注意が必要。後日の受け取りを考えると、申請を渡航直前に行くのはやめた方がいい。

利用航空会社	EVA AIR を往復ともに利用した。 渡航時に往復セットで予約したが、コロナの影響で帰りの便がキャンセルに。現地で割高になった便を再度予約した。
入国の際の現地空港名	往復ともに関西国際空港—台北桃園国際空港 最大の空港でターミナルが2つある。台北からは少し遠い。
空港から滞在先への移動について（交通手段や所要時間）	空港用の MRT (地下鉄) が出ているので、それで中心の台北まで移動した。到着時は学生のバディさんが案内してくれ、大学や寮の最寄り駅からの徒歩移動も一緒にしてくれた。 帰りは便が早朝であったこととアクセスのよくなさを考えて、近くのホテルに前泊した。空港利用者が多く宿泊するホテルのようだったので、早朝のチェックアウトや朝食、空港へのタクシーの手配など配慮が行き届いていたように思う。
入国審査について（提示した書類、審査官からの質問等）	詳しく覚えていない(すみません！) 特に苦労した覚えはないので、すんなり行けたと思う。 到着後親やバディさんとの連絡のため、SIM カードを真っ先に購入した。空港内の SIM を買える場所へのアクセスやメーカー、また万が一も含め寮に着くまでのシミュレーションを念入りにしていた。
渡航後の手続き（在留届の提出、外国人登録等）	半年の場合は特になかった。 1年する場合は現地で VISA の更新が必要だったと思う。
その他	コロナの状況下だったので今後の参考にならないかもしれないが、帰国時日本に入国する前に PCR 検査を受けた。 正午頃に到着後、待機場所(自宅とそれ以外)や国籍で分けられそのまま指示に従って検査を受け、入国審査。関空内のコンビニで飲食物を購入した後、会議室(WiFi)で 17 時過ぎまで待機、全員陰性。私はすぐに出し入れできる手荷物に読み物を入れていたのでそれで時間をつぶした。その後ウィークリーマンションにハイヤーを利用して移動、二週間滞在。

4. 金銭に関する情報

奨学金の受給	有
奨学金名	JASSO
奨学金月額受給額（円）	60,000 円
入国時に用意した金額	

クレジットカードについて(カード会社名・日常の利便性)	寮費のデポジットとして日本から送金しなければならなかったが、UFJは金額の大きさによっては振り込み元の口座(親など)の検査も入るので手間が多かった印象。 結局三井住友銀行の支店で通話しながら行った。必要書類の用意や通話待ちの時間もあるので、送金は締め切りに余裕をもってすべき。普段使い用のクレジットカードは複数持っていたほうがいい。
留学中に利用した銀行名	UFJ銀行と三井住友銀行
現地での銀行口座開設について(開設の有無・手続き等)	滞在が半年だったので開設できなかった。 コンビニのATM(日本のカードと相性が悪いATMも多く7/11のATMでしかできなかった)で、手数料と防犯を考えて月に一回くらい多めの額を下ろしていた。
デビットカードの使用について	コンビニで下ろすときはUFJのデビットカードを常に利用していた。買い物はなるべくカードを使い、その際はクレジットカード。ただ機械との相性もあるので複数持っていくべき。
日本からの送金方法について	送金は手数料がかなりかかるので、親に通帳を預け入してもらっていた。
1ヶ月の生活費(目安)	
その他	現金しか使えない店も多いが、使えるならカードを使うのが普通の印象。

5. 暮らしに関する情報

5. 1 住居に関する情報

住居の種類(学生寮(一人部屋・二人部屋)・アパート等)	学生寮の1人部屋 入寮前に何人部屋かの希望を伝え、割り振られる。学期中にトラブルもなく自分の希望で部屋を変更した人を除いては、友人全員1人部屋だった。
家賃	月7,400円(1元は約3.6円)で水道代込み 電気代も、部屋備え付けのもの状況にもよるが月500円は全く超えなかった。
住居を探した方法・時期	大学から連絡が来る。自力で探すよりは安心だと思う。
荷物の運搬方法 (ハンドキャリー、国際宅配便(会社名、プランも)等)	寮にもよるが最寄りの駅から近くはない。不便に聞こえるが、タクシーが日本に比べてとても安いので気軽に利用できる。帰国時はレジユメやお土産などがあったため国際郵便を利用した。9kgで1,500円弱ほど。NTU内に郵便局があるので便利。

その他	やはり寮の部屋は当たりはずれがあり、エアコンが汚い、湿気が多いなど問題はあるが、 受付スタッフに相談すると大抵何かしら動いてくれる。
-----	---

5. 2 食生活についての情報

普段の食事(自炊・食事つき学生寮等)	台湾は外食文化が根付いており、寮に電子レンジとオーブン、一応炊飯器とミキサーもあり鍋の貸し出しもあるが、基本的に外食。外食の方が安い場合も少なくない。野菜不足を常に意識していた以外は、外食で友達と出かけるのもコミュニケーションの一つという感じだった。
1ヶ月の食費	11,000 元ほど 贅沢をするときとしないときのメリハリをつけていたので、相対的には使っていない方だと思う。
その他	学食は非常に安い、皆大学の周辺で済ませがち。安くておいしいところも多く、世界各地の料理店(日本食もかなり多い)が楽しめる。

5. 3 その他日常生活に関する情報

電話について	両親や友達とは基本的に LINE でやり取りをしていた。何かの予約時は国内電話を、トラブルがあると国際電話をした。SIM を変えた後自身の電話番号を把握しておく必要がある。
インターネットについて (Wi-Fi 環境等)	NTU の Wi-Fi が校舎や寮で使える。寮はロビーにしか Wi-Fi がなかったので、自室では 4G を使い、勉強やその他通話は寮の公共スペースでしていた。1 年滞在の友人はルーターを購入していた。
コンピューターについて	日本から持ち込んだ Let's note を使用。日本の授業以上にパソコンを使うことが非常に多い。論文を読んだりレポートを書いたり R を使ったりと、基本的に毎日何時間もパソコンに向き合っていたので、機械関係が不安な場合は入念に用意した方がいいと思う。
郵便について	段ボールは学内の郵便局で規定サイズを買えるし、スーパーで使いまわしのものを無料でもらうこともできる。荷物に応じて値段が変わり、内容物は全て書かなければならない。居場所を随時確認でき、保険も掛けられる。

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

交通機関について	近場の移動は基本的に自転車。大学で中古で購入でき無料で修理してくれるサービスもある。登録すれば、万が一回収されてしまっても(中国語だととめていいのか禁止だが皆とめているだけなのかわからず回収されることもあった)受け取りがスムーズ。市内への移動はバスと MRT(地下鉄)。京都市出身で市バスに慣れていてもバスはややこしく運転も荒めだが、便利。MRT はとてもわかりやすい。基本的に中距離程度なら乗り物内での飲食禁止。
治安について	治安が悪いと感じたことはない。友人も校舎内は深夜歩いても残残大丈夫だと言っていた。物乞いをしている人もいるが、事故やもめごとは見たことがない。
保険について	自分は健康で体も強いと過信せず、ケアのしっかりしているものを選んだほうが良い。なんらかの緊張感でストレスはたまる。私は結局一度も利用していないが、友人曰く保険がなければかなり高額。 以前留学していたという友人と同じものに加入した。
医療機関・薬について	(友人談) 処方された薬で体調不良や虫刺されはちゃんと治るが、見たこともない色の薬や大層な量に驚いたと複数人が言っていた。
気候と服装について	服装は日本以上にラフで、学生に限らず全員が着たいものを着たいように着ている感じ。服もかなり安く見つけられる。梅雨は連日雨で天気も短時間でめまぐるしく変わった。梅雨が明けると高温多湿。暑くなくても除湿するようにしていたが、一度カバンにカビが生えたときには驚いた。
普段の買い物について	平日は食費くらいしか使わなかったが、休日は友人と出かけたりすると観光施設の入場費や旅行にお金を使っていた。だが観光施設の入場料はとても安い。 基本朝型の生活でお酒もさほど好きではなく現地に馴染んで身なりも最低限にしていたせいか、友人に生活費を言うと安い!と驚かれることも多かった。
娯楽・行事について	交通費や宿泊費も驚くほど安いので平均して月に一度は旅行に行っていた。留学生友達と生活様式も考え方も合うので毎回とても楽しく、英語も上達した。 旅行は四六時中一緒にいて話す機会も多く、相手の国の文化にも触れられるのでとてもおすすめ!

日本語の使用について	<p>完全に日本語断ちするのも一つだと思うが、私は精神的にしんどくならないように、また留学に来る日本人も貴重な出会いの一つだと思っていたのでたびたびご飯に行き生活面での相談をしていた。ただ授業では常に英語しか使わなかった。</p> <p>日本語断ちをすると主に英語での日常会話が、授業を重視すると経済学の用語としての英語や論文の慣れが向上するという印象。私は後者だったように思う。</p>
日本から持参して特に役立ったもの/持参したら良かったもの	<p>基本的に何でも買えるが、雨が多いのでカバンと靴は雨仕様のものを用意していった。靴は合う合わないがあるので、日本で用意していったのが正解だった。また最低限その国を知っておくために地球の歩き方などのガイドブック、パスポートを万が一にも紛失した時用の証明写真の予備、助けてくれた友人への日本からの手土産は持って行ってよかったと思う。</p> <p>到着直後は何ができるかわからないので、2,3日生活できる最低限は持っていくと便利だと思う。でもよほどのこだわりがない限り現地に馴染むのも留学のコツだと思うので、日本から持っていきすぎない方がいいと思う。</p>
留学前にしておいて良かったこと/しておけば良かったこと	<p>銀行などのカードの機能の確認と、阪大からのメールの電話番号認証の設定変更はしておくべき。お金がないとどうしようもないのと、NTU メールがあるとはいえ定期的に阪大メールを介して寮から連絡が来たりしていたため。</p> <p>またNTUは何かの手続きの際必要書類等丁寧に説明があるので、日本で用意できる書類はなるべく用意していくとスムーズ(入寮の時など)。私は不安が大きかったのでありとあらゆる書類をプリントして2か所に分けて保管したり、スキャンしてPDF化して保存したりしていた。</p>
その他	

6. 就職活動に関する情報

留学前の就職活動について(セミナー参加、自己分析、業界研究、就活サイト登録等)	<p>学食で開催されている企業説明会や、知るカフェなどで誘われたらという感じ。</p>
留学中の就職活動について(海外からの情報収集、企業へのコンタクト、インターシップ等)	<p>単位は出ない英語のプログラムの Ripple で勤めてもらったものには参加した。実際帰国してからしか本腰が入れられないと思っていたので、あまりやっていない。</p>

7. 語学の学習方法について

留学前に準備したこと、語学能力試験対策等	IELTS のスコアを何とか出した後は、通学中に TED を聞いたり日常用語を意識して調べたりしていた。 当初 TOEFL を大学の授業を通して勉強していたが、パソコン相手というのがなじまなくて、IELTS に変更した。日本人に馴染むのは IELTS だと思う。
留学中の学習方法、工夫したこと等	論文など授業に関する英語は地道に調べることができるが、日常用語や LINE の文面などは翻訳や検索では不自然なことが多い。そのため、私は積極的に話してリアクションや日常の言い回しを片っ端から覚えようと心がけていた。 また何か面白いことがあったときは事前に最低限単語を調べて、自分も話題を提供できるようにした。
留学後にどれぐらい語学力が伸びたか（主観的な実感や具体的なスコア等）	いずれスコアを取りたいと思っている状況なので実感だが、リスニングが上がったことと、英語の論文を読むことに抵抗がなくなった。

8. その他

留学して得られたこと	<p>①価値観が広がる 日本や日本人というものを客観的に見ることができた。生活様式だけでなくその延長で社会問題や歴史的・政治的背景を知るきっかけをもらえることも多々ある。</p> <p>②自立 留学準備の段階から手続きが多く、留学中もすべて自分ですので、大げさではなく社会がどう回っているのかどうつながっているのか考えるようになった。コロナ期間ということもあり各国の政策やその背景を知ることもできた。</p> <p>③学業へのモチベーション もともと少ない方ではないと思うが、世界が広がり知らないことを目の当たりにすると好奇心が増す。海外の学生は興味のある分野や意見を明言できる子が多い。</p> <p>④海外に親友ができた</p>
留学中に困ったこと	
留学前/留学中に参考になったウェブサイト等	

9. 留学体験談・エッセイ（様式任意）

留学を決めた理由、現地で履修した授業およびその感想、楽しかったこと、大変だったこと、

これから留学を考えている後輩へのメッセージ等を1～2ページ（様式任意）で記載してください。また、留学中に撮影した写真数枚（本人も映っているもの）も合わせて提出してください（国際交流室のHPやNewsletterに掲載させていただく可能性があります）。

国立台湾大学での五か月弱の留学生生活を終えて実感したことをお伝えしたいと思います。大学に入学する前から留学がしたかった、英語圏への留学で徹底して英語でいろんなことを学びたい、というような強いモチベーションがあったわけではなかった私が、自分でも驚くほど有意義で貴重な留学生活を楽しむことができました。書きたいこと、伝えたいことは山ほどありますが、大きく2つに絞ってお話したいと思います。コロナの混乱の中世界で唯一とあっていいほど、'大学に通って"留学生友達と対面で思い出を作れた'ので、応援して助けてくれた皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

<経験したこと>

まず英語に関してですが、私は日本語を断たずに過ごしました。かといって英語から逃げていたわけではなく、一人でヘビーな授業を取っていた分精神的にしんどくならないように、また留学に来た日本人学生も含め貴重な出会いだと思ったからです。その結果私はどちらかという学術的な英語に触れる機会が増え、日常会話は親友との旅行や普段のご飯の時に身についたと思います。親友はヨーロッパの学生には珍しく(偏見かもしれませんが…)春休みも課題のために旅行をキャンセルするような子で、旅行とご飯以外は個々に自学自習をしていました。一人でディスカッションやグループワークの多い授業を選択していたので、他学生に比べ予習復習が不可欠だったおかげか英語の論文を読んだり授業を聞きながら自分の意見を構築したり(発言までは自信をもって言えません…)という習慣ができ、これまで気にも留めていなかったニュースや制度に興味をわくようになりました。履修した授業の一つに、統計ソフトのRとSTATAを使うものがあり、ゼミで使うからと選択したものの非常にハードで、やりがいを感じました。

勉強以外については、複雑な手続きや機械系の扱いに慣れました。帰国時はデポジットの受け取りや飛行機の予約、寮のチェックアウトなど自力で判断することも多く、コロナで飛行機のキャンセルが相次いで日本人の友達と頻りに相談し情報交換していました。コロナで一部オンライン化した授業のためにZoomやUmeetingを設定するのも私にとっては一苦勞で、友達に聞こうにも英語なのでいい経験だったと思います。

<留学を振り返って>

ここからは留学生生活を振り返ってやってよかったこと、すればよかったことなどをお伝えします。少しでも参考になれば嬉しいです。

・煩雑な手続きは早め&丁寧に！

よほど海外に慣れていない限り留学に関する書類を用意するのは非常に大変です。まだ時

間があると思わずできることは前倒しでしましょう！特に現地で提出する書類は何度も確認してコピーやデータで複製すべきです。銀行のカードはクレジットなのかデビットなのか、阪大の OUMail は受信できるか、保険はどうなっているか…私は心配性なのでパスポート紛失時の顔写真も予備を持っていました。楽しい留学生活のため生活基盤となる手続きは念入りにしてください。

・なるべく現地の文化に馴染むこと

女性ならコスメなど美容アイテムを多く持っていきたくになりますが、個人的には最低限でいいと思っています。台湾は日本より服装も身なりも皆ラフで、お店も充実しています。食に関しても同様でアレルギー以外は現地の食べ物飲み物を友達と挑戦する方がいい思い出になります。一度試してどうしても受け入れられなければ送ってもらうこともできるので、まずは試す！現地の文化に触れることで、日本と何が違うの？と聞かれた時に話すのが楽しくもなります。

・英語表現は聞いてマネする！

私は留学開始ぎりぎりにスコアを獲得しました。つまりそれほど得意ではありませんでした。最低限は理解できましたが、欧米の留学生は日本で私たちが触れる英語に比べクセがある上に話すのがはやい学生が多いです。最初つらいのは当たり前。私はだんまりよりはマシと思い積極的に聞いて、覚えて次は絶対言えるように頭の中で毎晩リピートしていました。知らない単語を相手に聞くと、相手は英語でなんとか説明しようとしてくれます。これを繰り返すと語彙が増えるのはもちろん、自分の説明力もつきます。

個人的には少人数で話す方が発言する機会が多くおすすめです。相槌や出会いがしらの会話はロビーや寮の食事室で盗み聞きもしていました(笑) ハードルが高いかもしれませんが少人数での旅行もいい機会です！私はこれで親友ができました。

・授業は多く取りすぎないこと

NTU の英語で開講されている授業は、留学生向けということもあってか課題や発表がとてもヘビーです。量としてはさほど多くなくても、英語に慣れていなければ時間がかかるので少し物足りないくらいがちょうどいいと実感しました。めんどくさい、何とかなると思いがちな予習も、やればその分手ごたえを感じることができました。また単位に関係なく中国語の授業は取るべきだと思います。日常的に使うためというより、他の留学生と話すきっかけになります。専門科目より授業時間が長い分会話をする機会も多く、且つ漢字に慣れた私たちにはさほどハードではないのでぜひ選択することを勧めます。

・感謝！

ベタですがこれも実感しました。留学について相談に乗ってくれ応援してくれた友達、教授、経済学部の教務の方、何より家族。留学生活は想像以上に充実していてあっという間です。授業に行き友達とご飯に行き洗濯をして課題をして、たまに友達と遠出して、と夢中になるのは当然なのですが、たまには家族や友達に充実した自分を伝えるのも大切です。どうせ帰国したら会えると思わず、ぜひ連絡してください(笑)

ここでは表現しきれないほど来てよかったと強く思います。英語に自信がなくても、サ

大阪大学経済学研究科/経済学部
部局間協定校派遣生の海外留学体験談

一クールやバイトも楽しみたいと思っても、私は充実した留学生活を経験できました。これらを理由に諦めないで、一步踏み出してほしいと思います。そして今留学しようと考えている皆さん、審査に通過し後は行くだけという皆さんが楽しい留学生活を送れる日が、一刻も早く来ることを祈っています。